

令和7年度 全国学力・学習状況調査 鴻巣市の結果の概要【小学校】

1 鴻巣市と埼玉県・全国との正答率比較

	国語	算数	理科
鴻巣市	67	56	58
埼玉県	68	58	58
全国	66.8	58.0	57.1

2 小学校各教科の領域・区分等について

国語	<p>「話すこと・聞くこと」は、全国・県平均を下回っています。</p> <p>「書くこと」は、全国・県平均を下回っています。</p> <p>「読むこと」は、全国・県平均を上回っています。</p> <p>「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国・県平均を上回っています。</p> <p>「情報の扱い方に関する事項」は、全国・県平均を上回っています。</p> <p>「我が国の言語文化に関する事項」は、全国・県平均を上回っています。</p>
算数	<p>「数と計算」は、全国・県平均を下回っています。</p> <p>「図形」は、全国・県平均を下回っています。</p> <p>「測定」は、全国・県平均を下回っています。</p> <p>「変化と関係」は、全国・県平均を下回っています。</p> <p>「データの活用」は、全国・県平均を下回っています。</p>
理科	<p>「エネルギー」を柱とする領域は、全国・県平均を下回っています。</p> <p>「粒子」を柱とする領域は、全国平均を上回り県平均を下回っています。</p> <p>「生命」を柱とする領域は、全国・県平均を上回っています。</p> <p>「地球」を柱とする領域は、全国・県平均を下回っています。</p>

3 質問紙調査から（一部抜粋）当てはまる・どちらかといえば当てはまるを選んだ児童の割合

質問事項	鴻巣市	埼玉県	(差)	全国	(差)
将来の夢や目標を持っていますか	84.3	84.7	-0.4	83.1	+1.2
学校に行くのは楽しいと思いますか	92.8	88.4	+4.4	86.5	+6.3
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	81.9	81.6	+0.3	78.1	+3.8
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	83.9	83.5	+0.4	81.3	+2.6
5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	88.5	86.8	+1.7	83.4	+5.1
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	87.7	87.9	-0.2	84.9	+2.8
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	90.2	91.5	-1.3	88	+2.2
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	93.3	92.1	+1.2	90.4	+2.9
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	94.5	93	+1.5	91.6	+2.9

4 学習指導改善のための今後の方策

各学校の実情に応じて、以下の取組を推進してまいります。

【鴻巣市学習指導の重点】

- 子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法等の柔軟な設定等をしたり、必要に応じて、重点的な指導を行ったりするなど、学習内容を確実に定着させる授業を展開していきます。
- 基盤となる資質・能力等を土台として、子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題等に取り組む機会を設定することで、児童生徒自らが学びを選択・決定・調整しながら進めていくことができる授業を展開していきます。
- 学習課題について自分の考えをもち、ペアやグループ、異学年、地域の方など多様な他者と協働しながら、よりよい学びを生み出すことができる授業を展開していきます。

【各教科における指導方法の改善】<国語>

○〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕

<重点：文や文章の中で、漢字を正しく使う>

- ・漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うよう指導していきます。

○〔情報の扱い方に関する事項〕

<重点：情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使う>

- ・目的や意図に沿って、線や囲みなど図示することによって自分なりに情報を整理できるようにすることが重要です。情報の整理の仕方については、様々な方法があり、年間を通じて複数回、意図的に指導していきます。

○〔我が国の言語文化に関する事項〕

<重点：世代による言葉の違いに気付く>

- ・世代によって呼び方が違うものを集める活動をしたり（「寝巻き」「パジャマ」、「えもんかけ」「ハンガー」など）、異なる世代にインタビューをする活動をしたりしながら、それぞれの世代に特有の言葉遣いがあることを考えられるように指導していきます。

○〔話すこと・聞くこと〕

<重点：目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する>

- ・伝え合う内容を検討する際、聞くことにおいては、目的や意図に応じて、聞くことを具体的に考え、関係する材料を整理しておくことが重要です。学習指導に当たっては、知りたいことについて、自分が知っていることや予想したこと、疑問に感じていることなどを聞く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりすることが重要です。また、知りたいことを聞くという目的に加えて、相手の答えを予想したり、予想した答えと関連して聞きたいことを考えたりするなど、聞くときの場面や状況を意識することなどを指導していきます。

○〔書くこと〕

<重点：書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくる>

- ・内容のまとまりで段落をつくるためには、書こうとしている材料の中から、中心に述べたいことを絞ることが重要です。このことによって、中心となる事柄や、それに関わる他の書きたい事柄が明らかになります。学習指導に当たっては、文章を書く際にまずはそれぞれの児童が「何のためにその文章を書きたいのか」という目的を明確にもつことが大切です。その上で、その目的を達成するには、「何を書きたいのか」を整理し、書く内容の中心を決めるなどして指導していきます。

○〔読むこと〕

<重点：文章全体の構成を捉えて要旨を把握する>

- ・要旨とは、書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄や、書き手の考えの中心となる事柄などである。要旨を把握するためには、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、文章全体の構成を捉えることが重要です。学習指導に当たっては、【木村さんのメモ】のように、

書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているかを書き出し、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめるなどして、内容の中心となる事柄などを捉えることができるよう指導することが必要である。その際、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えることができるように指導していきます。

【各教科における指導方法の改善】<算数>

○〔数と計算〕

<重点：示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表すことができるようにする>

- ・問題を解決するために、示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表すことができるようにすることが重要です。指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、それぞれの野菜の70gの目安が示された資料から、自分が何gの野菜を食べたのかを調べる活動が考えられる。その際、示された資料から、必要な情報を選び、それと自分が食べた野菜の数量の関係を捉え、式に表すことができるようにすることが大切である。また、四則の混合した式について、計算の順序のきまりを理解し、正しく計算できるよう指導していきます。

○〔図形〕

<重点：作図の仕方と図形の性質を関連付けて、図形の性質についての理解を深めることができるようにする>

- ・作図の学習の際、図形を作図することができるようにするだけでなく、その手順や方法と図形の性質を関連付けて、図形の性質の理解を深めることができるようにすることが重要です。指導に当たっては、例えば、本設問のように、平行四辺形をコンパスを用いて作図する活動が考えられます。その際、コンパスを用いた平行四辺形の作図の仕方を、平行四辺形の「向かい合う辺の長さが等しい」という性質に基づいて説明できるようにすることが大切です。また、コンパスは単に円をかくだけでなく、等しい長さを測り取ったり移したりすることができる道具であることを理解できるように指導していきます。

○〔変化と関係〕

<重点：日常生活の問題を解決するために、伴って変わる二つの数量に着目し、必要な数量を見いだすことができるようにする>

- ・日常生活の問題を解決するために、ある一つの数量を調べようとするとき、その数量を直接調べにくい場合は、その数量と関係のある他の数量を使って調べられないかと考えて事象を観察し、伴って変わる二つの数量に着目し、必要な数量を見いだすことができるようにすることが重要です。指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るために、プッシュの回数に伴って変わる数量に着目し、必要な数量を見いだす活動が考えられます。その際、一方の数量を決めればもう一方の数量がどのように決まるのか、あるいは、一方の数量は他の数量に伴ってどのように変化するのか、という見方で二つの数量の関係を捉えることができるように指導していきます。

○〔データの活用〕

<重点：簡単な二次元の表から、結論の根拠となる数値を読み取ることができるようにする>

- ・目的に応じて、簡単な二次元の表から、導いた結論の根拠となる数値を読み取ることができるようにすることが重要です。指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、示された表から出荷量について、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」が多い都道府県を見付ける活動が考えられます。その際、下のように、表のどの部分に着目するのかを考えて、都道府県ごとに「春だいこん」「夏だいこん」「秋冬だいこん」の出荷量の大小を比較し、結論の根拠となる数値を読み取ることができるようにすることが大切です。また、一つの都道府県を見付けて終わるのではなく、表に記載されている他の都道府県についても調べることができるように指導していきます。

【各教科における指導方法の改善】<理科>

○〔「エネルギー」を柱とする領域〕

<重点：見て、考えて、言葉で表現することを通してより深く理解する>

- ・観察、実験の結果や結論を、図に整理したり、言葉で説明したりするなど、知識と関係付けて理解を深めることが、引き続き大切です。指導に当たっては、例えば、電磁石の強さは、電流の大きさや導線の巻数によって変わることを考察する際に、「巻数を増やす」などの条件を表す言葉や、「電

磁石が強くなる」などの現象を表す言葉を使い分けて説明する学習活動を取り入れる等して、指導していきます。

○〔「生命」を柱とする領域〕

＜重点：得られた結果を基に、規則性を見だし、他の条件での結果を予想する＞

- ・他の条件での結果を予想するためには、得られた結果を表やグラフで可視化し、規則性とともその傾向について考えることが重要です。指導に当たっては、得られた結果を処理するとき、表やグラフで結果を整理しながら、条件を変えたときの数値を読み取り、それらの関係について考える学習場面を設定することが大切です。例えば、得られた結果の中の最大値と最小値を基に、その中間値を予想するといったように、得られた結果やまとめから規則性ととも傾向を見だし、他の条件の結果を予想すること等を指導していきます。

○〔変化と関係〕

＜重点：道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する＞

- ・場面や目的に応じて、単位時間あたりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるようにすることが重要です。指導に当たっては、例えば、学力調査の設問を用いて、二人の歩く速さの比べ方を考察する活動が考えられます。その際、二人の歩いた道のりとかかった時間を確認し、道がまっすぐであることや曲がっていることに関係なく、二人の歩いた道のりが等しい場合はかかった時間で速さを比べることができることを説明できるように、指導していきます。

○〔「地球」を柱とする領域〕

＜重点：得られた結果を基に、規則性を見だし、他の条件での結果を予想する＞

- ・他の条件での結果を予想するためには、得られた結果を表やグラフで可視化し、規則性とともその傾向について考えることが重要です。指導に当たっては、得られた結果を処理するとき、表やグラフで結果を整理しながら、条件を変えたときの数値を読み取り、それらの関係について考える学習場面を設定することが大切です。例えば、得られた結果の中の最大値と最小値を基に、その中間値を予想するといったように、得られた結果やまとめから規則性ととも傾向を見だし、他の条件の結果を予想することができるように指導していきます。